

経済統計 練習問題

第4回 全数調査と標本調査(2)

2017年10月4日

問1 事業所・企業に関する全数調査において、調査票を参照しながら、調査されている項目には○を、調査されていない項目には×を書き、下の表を完成させてください。(経済センサス - 基礎調査は「調査票 A」を、活動調査は「製造業」のものを参照してください。)

	経済センサス - 基礎調査	経済センサス - 活動調査	事業所・企業 統計調査	工業統計	商業統計	サービス業 基本調査
従業者数						
年間販売額(出荷額)						
用水量						
経営組織						

問2 全数調査と標本調査について、次の①～⑤のうちから、適切でない記述を一つ 選びなさい。

- ① 全数調査には標本誤差はないが、標本調査には標本誤差が含まれる。
- ② 全数調査であっても、調査対象が少なければ、標本誤差が含まれる。
- ③ 適切な標本調査にもとづけば、母集団の値を統計的に推定することができる。
- ④ 全数調査にも非標本誤差が含まれることがあるので、結果が正確とは限らない。
- ⑤ 全数調査よりも標本調査のほうが、調査を実施・運営する管理が容易な場合が多い。

(2012年 統計検定 専門統計調査士 問3)

問3 統計調査は、全数調査と標本調査に大別できる。次の（ア）～（オ）は、全数調査と標本調査についての説明であるが、適切でないものが2つ含まれている。

適切でない説明の組合せを、下の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。

- （ア）全数調査は、一般に調査規模が大きくなり、多大な経費が必要となるが、詳細な集計ができたり、小地域の集計ができるなどの長所がある。
- （イ）標本調査の結果には標本誤差が含まれるので、重要な調査は必ず全数調査で行っている。
- （ウ）標本調査は、一部について調査する方法であるので、実際に調査を行った調査対象についての状況を、調査結果として示すことで十分である。
- （エ）社会経済状況についての動向を早期に把握するには、標本調査の方が全数調査より適している。
- （オ）国勢調査と経済センサスは全数調査で、労働力調査と家計調査は標本調査である。

- ① （ア）と（イ）
- ② （ア）と（エ）
- ③ （イ）と（ウ）
- ④ （ウ）と（オ）
- ⑤ （エ）と（オ）

(2014年 統計検定 統計調査士 問14)